

熱帯の有用材 (11)

緒方 健

オヴァンコール (Ovangkol)

学名 : *Guibourtia ehie* (A. Chev.) J. Léonard (マメ科)

(Syn. : *Copaifera ehie* A. Chev.)

オヴァンコールはマメ科カワラケツメイ亜科 (Caesalpinioideae) に属する樹木で、リベリアからガボンにいたる熱帯西アフリカに分布する。木材はコートディヴォアールを主としてガーナ、ナイジェリア南部、ガボンなどから出材されるが、どの地域でもあまり多くない。木材の取引名としてはガボン名のオヴァンコールが広く用いられるほか、コートディヴォアールのアマザクエ (Amazakoué)、ガーナのアノキエ (Anokye) の名称も知られており、また学名の種小名からエヒー (Ehie, コートディヴォアールの地方名に由来するか?) と呼ばれることもある。

樹木の形状 : 樹高 30~45 m, 枝下高 20~25 m, 直径 50~80 cm (〜1 m) に達する高木で、通直、円筒状の樹幹をもち、下部には高さ 2~2.5 m ほどまで板根が発達する。樹皮は黄灰色~緑灰色~暗灰色で、ほぼ平滑。樹皮の切口は褐色を帯び、樹液はしばしば芳香をもつ。葉は1対の小葉をもつ複葉で、長さ 5~6 mm の葉柄がある。小葉は前回とりあげたブンギと同じく特徴的な幅広の鎌形で、長さ 3~7.5 cm, 幅 1.5~3.5 cm, 無柄。花序は長さ 4~9 cm の円錐花序で、頂生または腋生する。花は大きさ 5 mm ほどの白色の小花で、萼片 3~4, 雄ずい 8~12 (ふつう 10),

花弁は欠く。果実は紙状に薄い偏平なさやで、長さ 4~6 cm, 幅 3~4 cm の黒色をした楕円形をしており、1 個の種子を含む。オヴァンコールは湿潤落葉樹林の樹木で、散在的に生育し、あまりかたまってはみられない。熱帯西アフリカでは11月頃に花が咲き、その後落葉し、1~2月頃新芽が出る。

木材の特徴 : 辺材は幅 4~10 cm で、新鮮時には淡黄白色、乾燥後は灰白色~淡灰褐色を示す。心材は褐色で、しばしば全体が黄緑色を帯び、暗緑色~黒緑色の不規則な縞をもつ。くすんだ光沢をもつことがあるが、著しくはない。木理はほぼ通直か浅く交錯する。肌目の精粗は中庸。ときに道管中に白色のチョーク様物質を含むことがある。気乾比重 0.70~0.81 (平均 0.77)。顕微鏡的な識別上の特徴とし



図-1 *G. ehie* 花序と葉のある枝および果実

OGATA, Ken : Useful Timbers in the Tropics (11) Ovangkol
農林水産省林業試験場木材部

ては、道管は孤立するものが多く、2~4 (～6) 個複合するものが混じる。孤立管孔の最大径は 170～230 μm 、道管の分布数は 4～6/ mm^2 。放射組織は 1～(3) 4 から 1～5 列であるが、少数列のものは少なく、多くは (3) 4, 5 列で、最大高は 800～1250 μm 。

軸方向柔組織は翼状柔組織と、1～5 mm

程度のやや不規則な間隔の带状柔組織からなる。繊維は長さ 0.8～1.6 mm。結晶がくさり状をなす多室結晶がみられるが一般にあまり多くなく、個体によっては存在しないこともある。シリカは含まない。

木材の加工的性質としては、乾燥は反り、割れの起こりやすい傾向はあるが注意すればむずかしくない。生材から全乾までの収縮率としては半径方向 3.6～5.3%，接線方向 6.6～9.8%，全収縮率 10.0～12.0% の値が出されている。切削性は比重が高い割には容易で、きれいな仕上がりが得られる。強度、耐久性はかなり高い。心材への防腐剤の注入は困難である。

オヴァンコールはチークを思わせる落ち着いた色合いとウォールナットに似た縞をもつ美しい木材で、高級家具、キャビネット、壁面装飾材、フローリングなどに適している。この木材が知られるようになったのは比較的新しく、ヨーロッパでもこの 20～30 年来のことである。良材であるにもかかわらずあまり市場にみられないのは、産出量がかかなり限られているためと思われる。

木材がオヴァンコールに似た樹種として、シエラレオネからアンゴラにかけての熱帯西アフリカ（カメルーン東南部からコンゴ、ザイールに比較的多い）に分布する *G. arnoldiana* (De Wild. et Th. Dur.) J. Léonard があり、ムテニエ (Mutenye) またはベンゲ (Bengé, M'bengé) の名で知られている。オヴァンコールと異なる点としては、比重がやや高い（気乾比重 0.79～0.91, 平均 0.87）、色は褐色がより濃い、道管は径が少し小さく（孤立管孔の最大径は 110～140 μm ）、分布数が多い（10～17/ mm^2 ）、放射組織は 1～3 (4) 列、最大高 500～900 μm で幅、高さともいくらか小さい、翼状柔組織はやや発達が悪い、などがあげられる。色調もオヴァンコールより悪く、比重が高いだけ加工性も劣るようである。

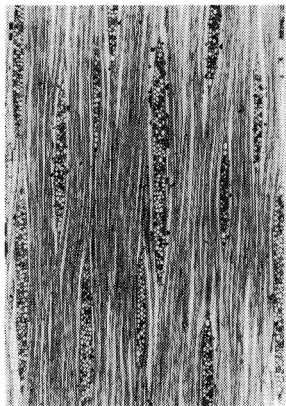
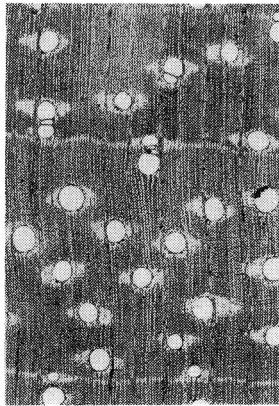


写真-1 *G. ehie* 木口面 (16×) 写真-2 同左 板目面 (40×)